

仕事上パソコンは毎日使ひて、ワードは勿論の事、エクセルやパワーポイント等に對してあまり拒否反應はなし。従ひてインターネットも頻繁に閲覽す。せざれば仕事にならぬ場合多々あり。

最近海外へ赴任せる友人よりフエースブック利用せらるれば便利なりと言はれ、始めたり。リンクドインも同様なれば、何故頻繁にメール交信する相手を「察知」し、フエースブック等にて「繋がらなきや」と訊きて来るならむ。さながらメールを常に監視せらるるが如し。果して、即刻「友達」にならざるかと、畫面に出現するあり。加へて、關係ありと思はるる人々とも「友達」にならざるかと案内せらる。ややもすれば危ふしと覚ゆるほど、あつといふ間に「繋がり」擴がる。友達のその友達のごとく擴散して行く様を見ながら、近頃、インターネットの世に憚るなきは懼るべきものあり。報道關係者、外務省關係者等どんな廣がり、いかにしてこの人たちと自分が繋がりがあるを察知するや、少々恐怖心煽らる。それぞれの「友達」の家族寫真やら、友人たち、同僚たち夥しき数の寫真瞬時に自分のフエースブックに侵入す。さてその「友達」たちの興味對象なるインターネット上の映像、例へば米國の大統領選、ペット、神社佛閣、展覽會、イベント、美術館等々ぞろぞろ閲覽すること可能なり。さて友達の友達、これまでさほど接觸のなかりし人たちとも繋がる。をかしといへばをかしけれど、空恐ろしくもあり。映像見らるれば、メールよりよほど身近に感ずるも事實なり。ただし、自分の事も「暴露」せらるる危険性はある。

プライバシー、いかにしてか守るべき。街には至る所に監視カメラありて、プライバシーの如きものはや存せずといふべきか。

(平成二十九年一月二十八日受附)